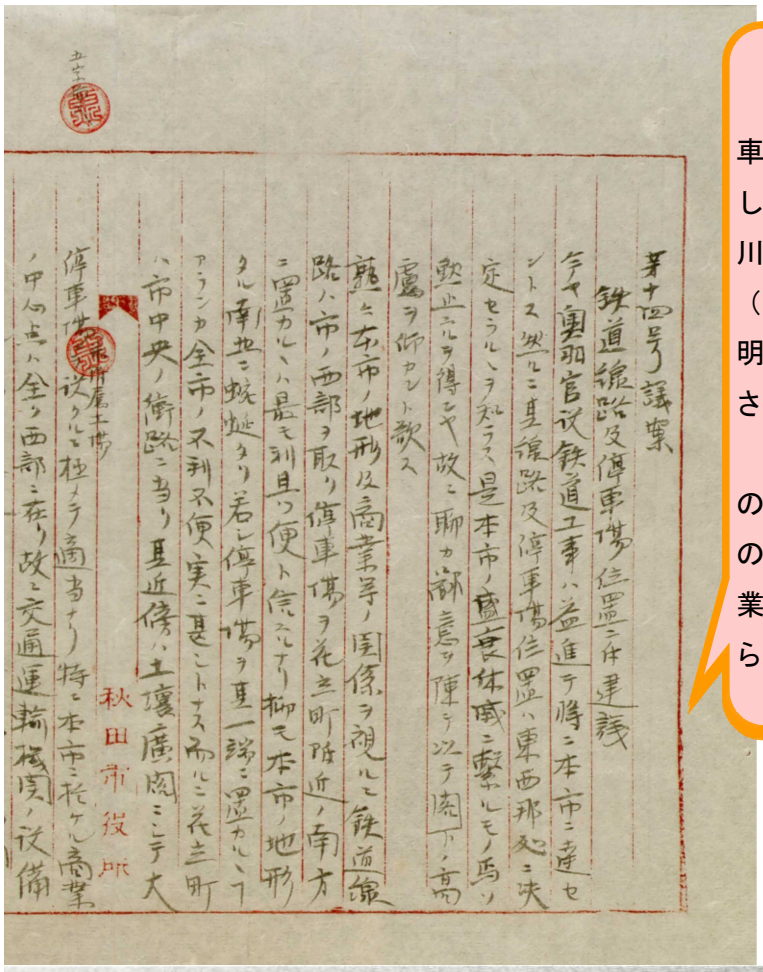
西か東か秋田駅

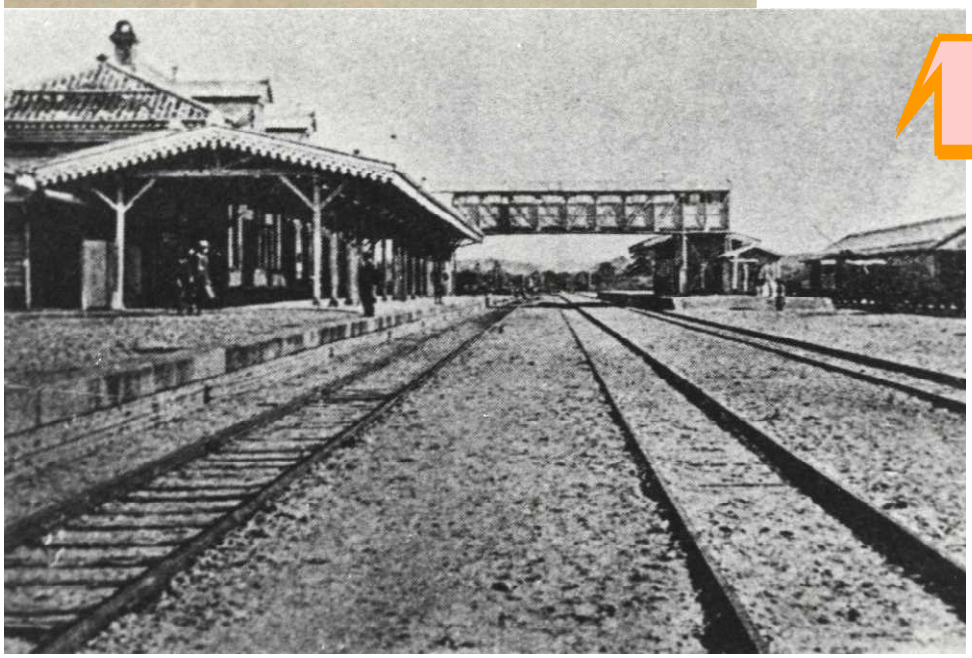
明治25年（1892）奥羽線の敷設（ふせつ）が決定されて以来、秋田市にとって最大の関心事は、市の東側と西側のどちらを鉄道が通り、秋田駅がどこに設置されるかでした。結局、市の中心部の東側を通り、駅は現在の秋田駅の位置に決まり、明治35年（1902）10月21日に開業しました。


第十四号議案
鉄道線路及停車場位置ニ付建議
今ヤ奥羽官設鉄道工事ハ益進テ將ニ本市ニ達セントス然ルニ其線路及停車場位置ハ東西那処ニ決定セラルヽヲ知ラス是本市ノ盛衰休戚ニ繋ルモノ焉ソ敢テ此ヲ傳ヘヤ故ニ聊カ部意ヲ陳ヲ以テ閣下ノ高慮ヲ仰カント欲ス
抑ヲ本市ノ地形及商業等ノ関係ヲ顧ルニ鉄道線路ハ市ノ西部ヲ取リ停車場ヲ花立町附近ノ南方ニ置カルヽハ最モ利其ノ便ト信ズ而シテ柳之本市ノ地形タル南北ニ蜿蜒タリ若シ停車場ヲ其一端ニ置カルヽアランカ全市ノ不利不便実ニ甚シトナス而ルニ花立町ハ市中央ノ衝路ニ当リ且近傍ハ土壌廣闊ニシテ大
秋田市役所
停車場位置ニ付テ
設クル極メテ適当ナリ特ニ本市ニ於ケル商業ノ中心ハ全ク西部ニ在リ故ニ交通運輸機関ノ設備

当初、秋田市会は手形堀反町付近に停車場を設置する案（東部案）を建議しましたが、市西部の商工業者は、停車場は川尻八橋付近に設置すべきであると主張（左の資料は西部案の議案書）した結果、明治33年２月の秋田市会でもこれが採用され議決しました。

ところが、この決議の少し前に、東線のほうが建設費が少なくすむことや水害の被害を受けないことを理由に、鉄道作業局から建設部長宛に上申されたことから、結局、東部案に決定しました。

「明治33年　秋田市会会議録」より



開業当時の秋田駅構内